



移動診療車の実証実験
を行う考えは

山田 忠晴 (公明党)



問／移動診療車の実証実験を行う考えはないか。
答／オンライン診療は、非対面診療となるため、検査や処置等が困難であることなど、導入に向けて多くの課題があるものと認識している。診療所の医師と繋いで診療を行う方法や、看護師のみを配置した診療所と病院を繋いで診療を行う方法など、オンライン診療を活用した診療体制の手法などを研究していきたい。

市立小中学校の制服等について問う

問／指定の制服や体操服の購入に保護者の負担が大きいとの声があるが、負担軽減にどのような取り組みでいくのか。



答／市立小中学校における制服や体操服の指定の現状について、制服は小学校では47校中4校、中学校では22校全てで、体操服は全ての小中学校で指定がある。市では、経済的に就学困難な世帯に支援を行っているほか、各学校では、買い替えや卒業を機に不要となった制服等のリユースを行うったり、指定を廃止したりして、負担を減らす取り組みをしている。教育委員会としては、制服やその他の指定用品について、児童生徒や保護者の意見を把握して改善や指定の変更を行うことが重要であり、特に保護者の負担軽減等を十分考慮するように指導していく。



人生100年時代の
超高齢社会に向けて
ストラットン恵美子(久岐野)



問／高齢化社会に向けた市の体制はどうか。
答／地域包括支援センターでは、要支援者等のケアプラン作成の業務量が多いことを把握し、令和6年度から職員を増強して体制強化を図る。

問／意欲ある高齢者の就労やボランティア活動などの体制づくりに取り組むべきではないか。
答／有償ボランティア事業では、委託団体と、需要と供給のミスマッチの改善を図ったほか、ボランティア登録者の有効利用に向け、社会福祉協議会と意見交換を行った。

問／認知症サポーター養成の現状と課題は。
答／まだ認知症に対する誤った理解や自分ごととして捉えられない状況も一部にあると認識している。正しく理解し見守るサポーター養成を継続し、地域で見守り支える「チームオレンジ」の取り組みを推進する。



認知症サポーター
キャラバン「ロバ隊長」

問／ペットのいる独居高齢者等の施設入所など、万一の場合に備えた体制づくりはどうか。
答／上越動物保護管理センターや動物愛護団体と連携し、譲渡や飼育指導、引き取りなど状況に応じた必要な支援に繋げる。

問／終活サポート事業が必要ではないか。
答／当市での終活に関する相談は、令和3年度に15件、令和4年度は2月までに23件。葬祭事業者や司法書士、民間企業を案内している。

問／終活サポート事業が必要ではないか。
答／当市での終活に関する相談は、令和3年度に15件、令和4年度は2月までに23件。葬祭事業者や司法書士、民間企業を案内している。



市職員の採用試験が
変わります

中土井 かおる (みらい)



問／市職員の採用試験の受験者が減少する中、人材確保に向けた取り組みの状況はどうか。
答／仕事の魅力や、やりがい伝えるために「職員採用PR動画」を作成し、SNSで発信している。また、受験の負担軽減のために東京会場を設けている。

問／令和5年度からグループディスカッション試験を導入した意図と、「人物重視の採用」とあるが期待する人物像とは何か。
答／将来の見通しが困難な時代に、コミュニケーション能力や柔軟な思考、積極性や協調性が重要と考え導入した。多種多様な市役所業務に対し、やる気と働き甲斐を持ち、失敗を恐れずチャレンジし続ける姿勢を期待する。

思春期のメンタルヘルスの相談対応は？

問／思春期のメンタルケアの必要性は高く、早期対応が必要であるが、現状と支援内容は。
答／すこやかなくらし包括支援センターで受けた中・高校生の心の相談件数は、令和3年度は実人数129人、延べ955人だった。相談があった際は、臨床心理士や保健師などが面談や家庭訪問を通じて状況を把握し、保護者への支援を行っている。大部分が継続的に支援をしており、必要な場合は子どもとの面談や新たな支援に繋いでいる。関係機関と連携し、寄り添った支援に努める。

問／思春期のメンタルケアの必要性は高く、早期対応が必要であるが、現状と支援内容は。
答／すこやかなくらし包括支援センターで受けた中・高校生の心の相談件数は、令和3年度は実人数129人、延べ955人だった。相談があった際は、臨床心理士や保健師などが面談や家庭訪問を通じて状況を把握し、保護者への支援を行っている。大部分が継続的に支援をしており、必要な場合は子どもとの面談や新たな支援に繋いでいる。関係機関と連携し、寄り添った支援に努める。